

日本農業遺産認定
丹波篠山の黒大豆栽培・300年の歴史



黒大豆を未来へつなぐ

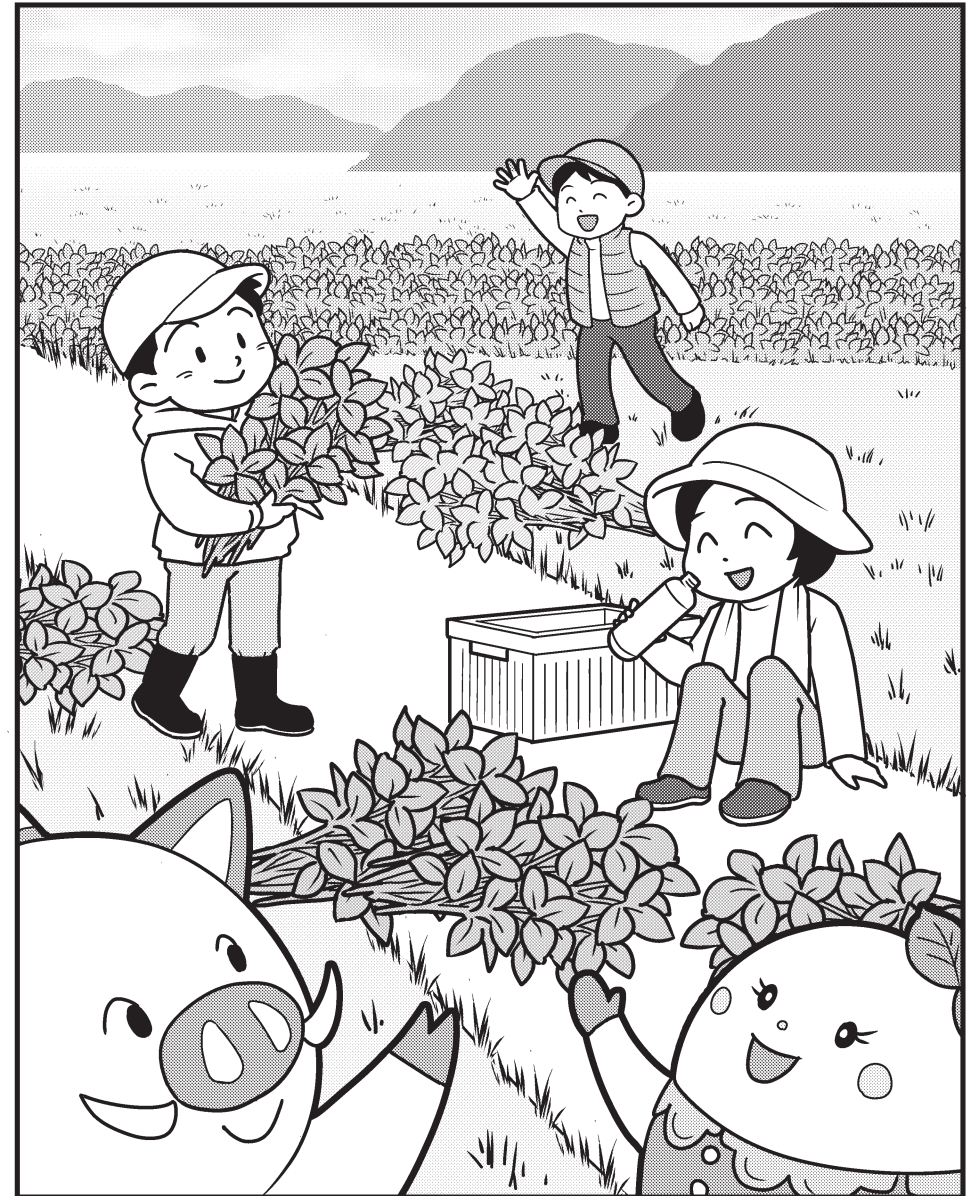
丹波篠山

農業遺産物語

丹波篠山市

米

祝・日本農業遺産認定(令和3年2月)



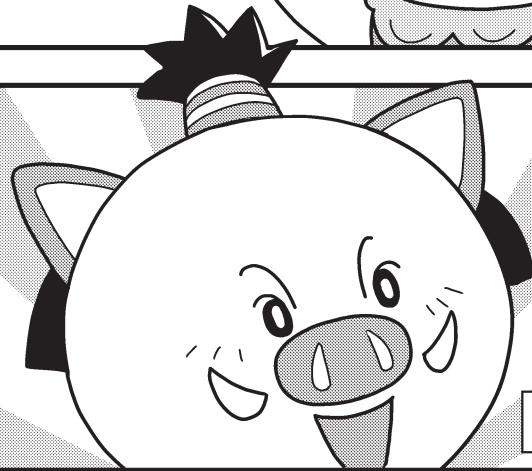
まめりん

知ってる？
丹波篠山の黒大豆栽培が
日本農業遺産に
認定されたんだよ！

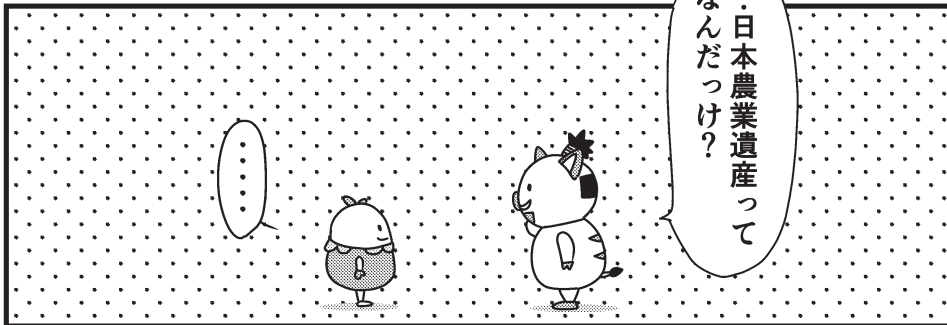


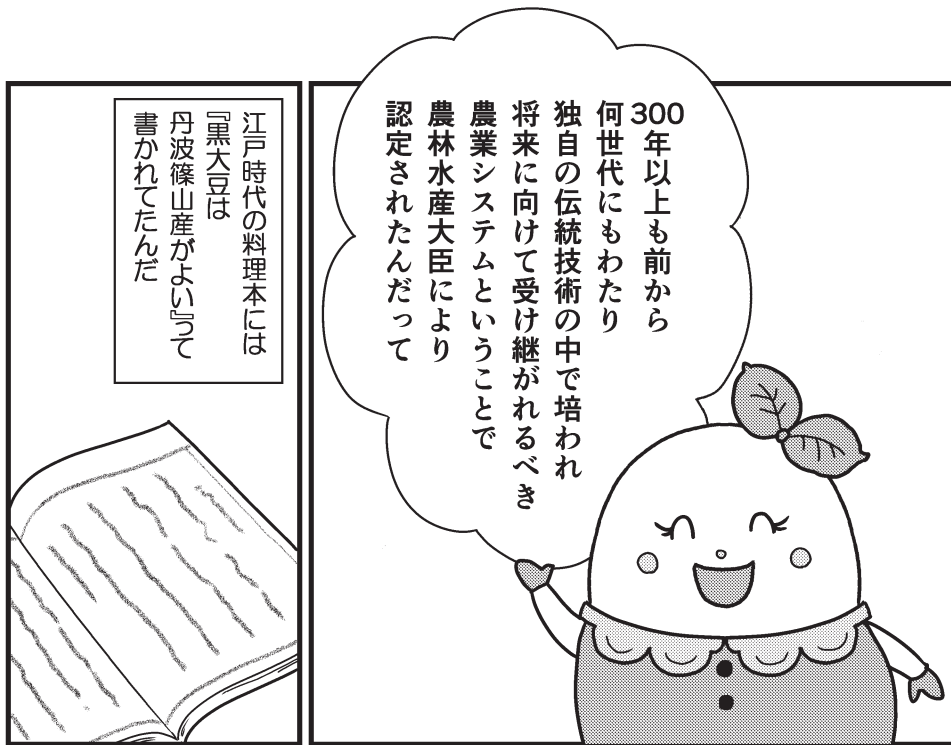
すごい！
おめでとう！

まるいの



…日本農業遺産って
なんだっけ？





日本農業遺産認定

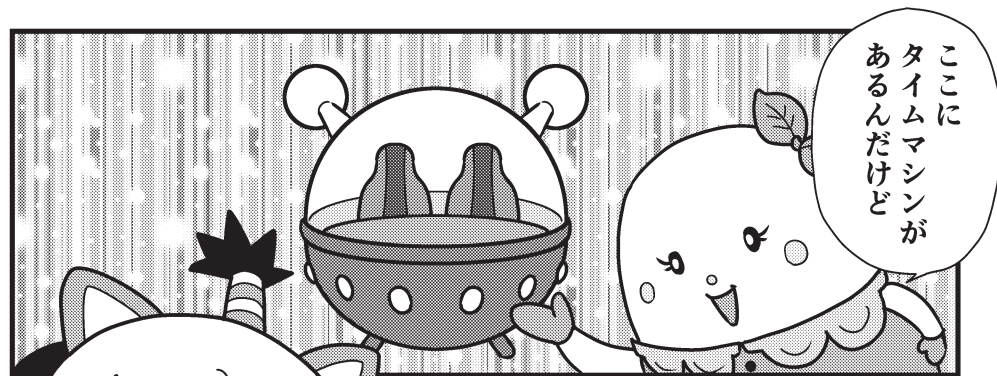
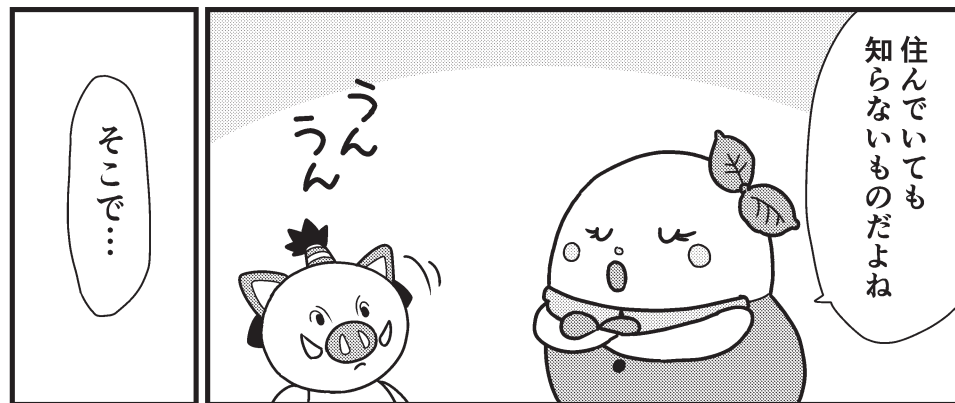
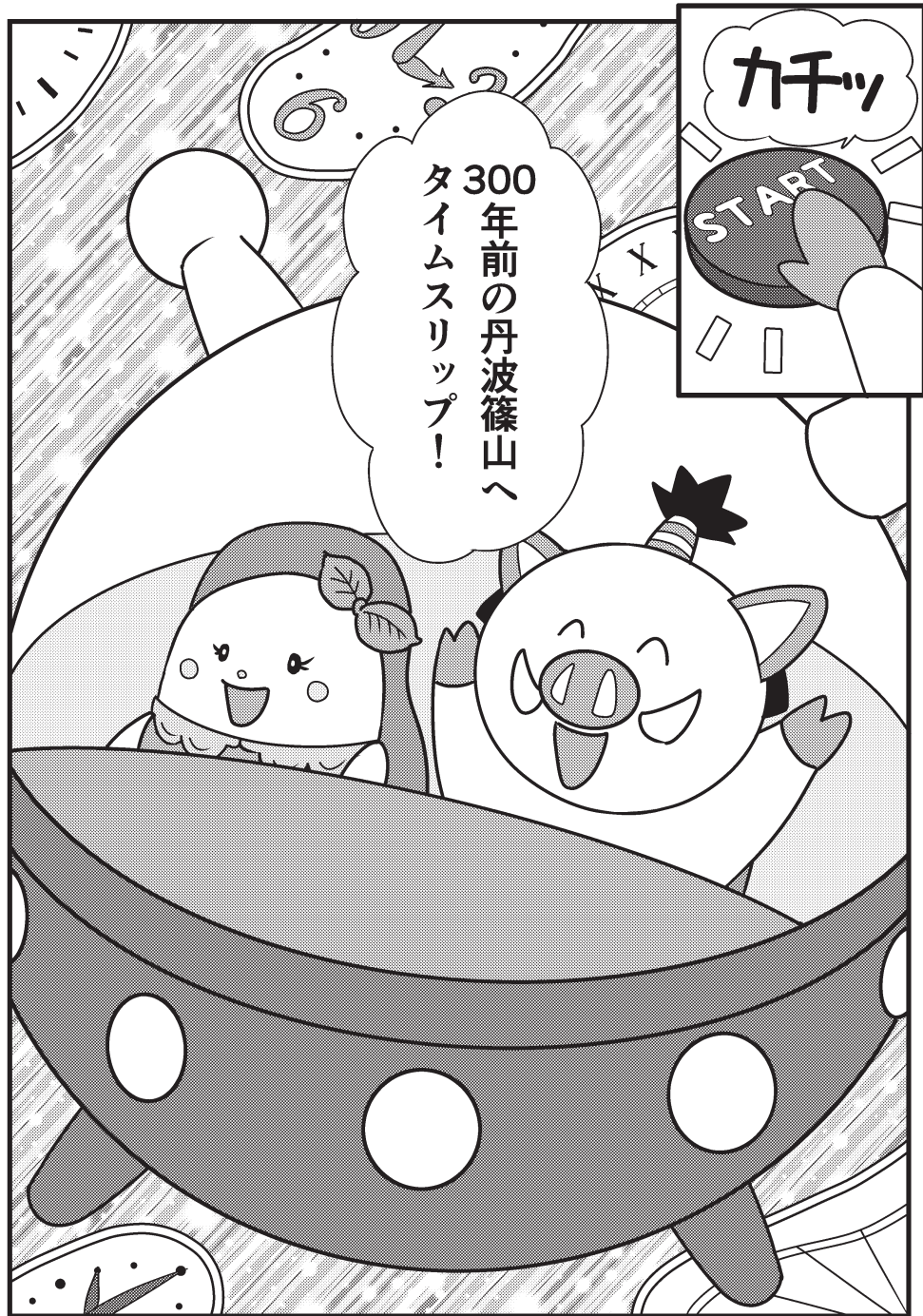
丹波篠山の黒大豆栽培・300年の歴史

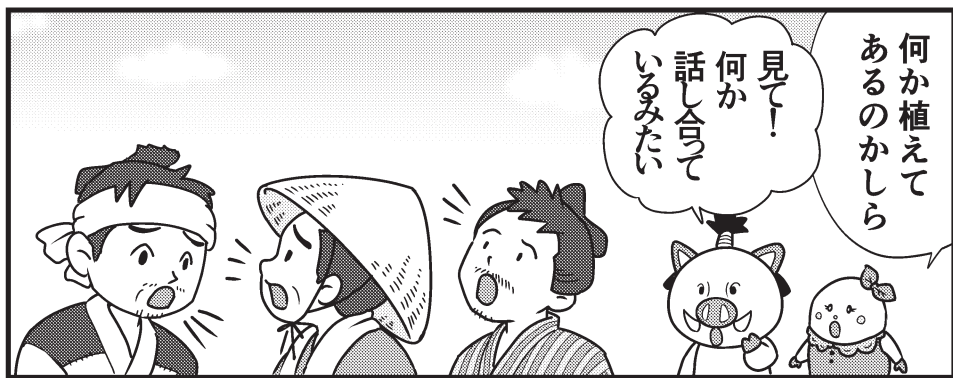
令和3年2月、「丹波篠山の黒大豆栽培～ムラが支える優良種子と家族農業～」が農林水産省から日本農業遺産として認定されました。「300年も前から何世代にもわたり独自の伝統技術の中で培われ、将来に向けて受け継がれるべき農業システム」として、栽培技術だけではなく、集落での助け合い、灰小屋のある農村景観、ため池・水路などの生物多様性も評価されました。



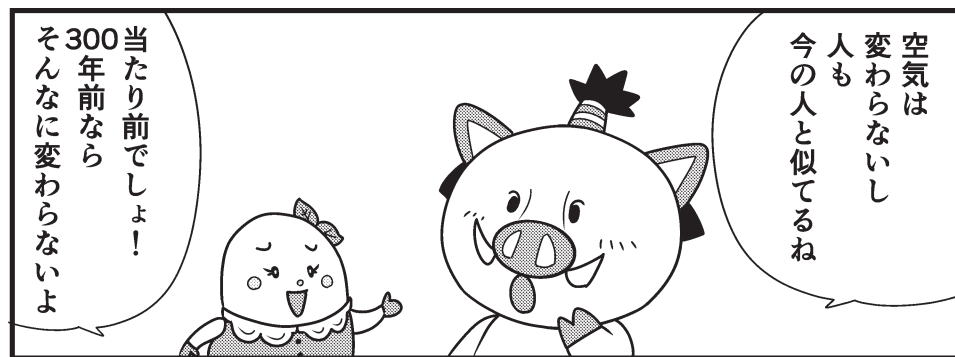
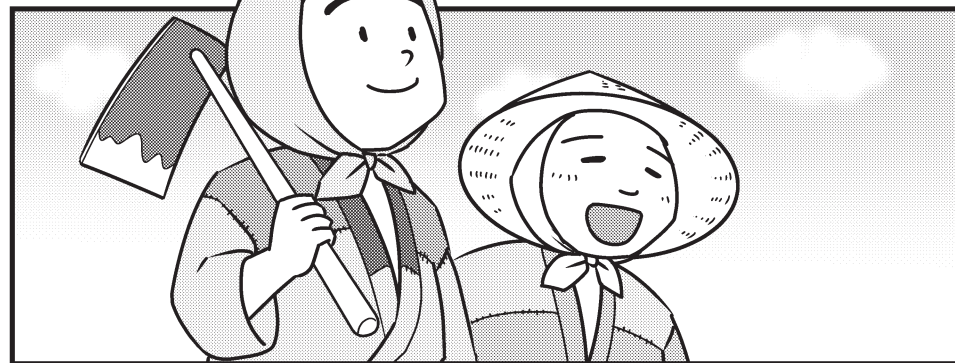
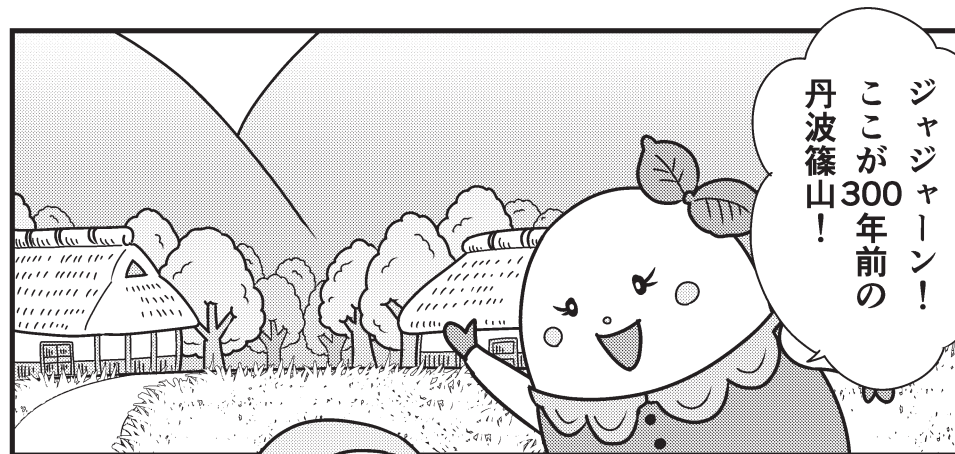
日本農業遺産とは

日本農業遺産は、国連食糧農業機関（FAO）による世界農業遺産（GIAHS）に対し、その国内版として農林水産省が制定した制度です。我が国において、重要かつ伝統的な農林水産業が営まれ、固有の農文化や農業生物多様性が育まれている地域を「農林水産業システム」として、24地域が認定されており（令和5年1月現在）、各地で多様な地域性に富む伝統的な農林水産業が受け継がれています。





丹波篠山の黒大豆の歴史を見に行こう！



まめりんの(豆)知識



丹波篠山の黒大豆栽培の特徴その①

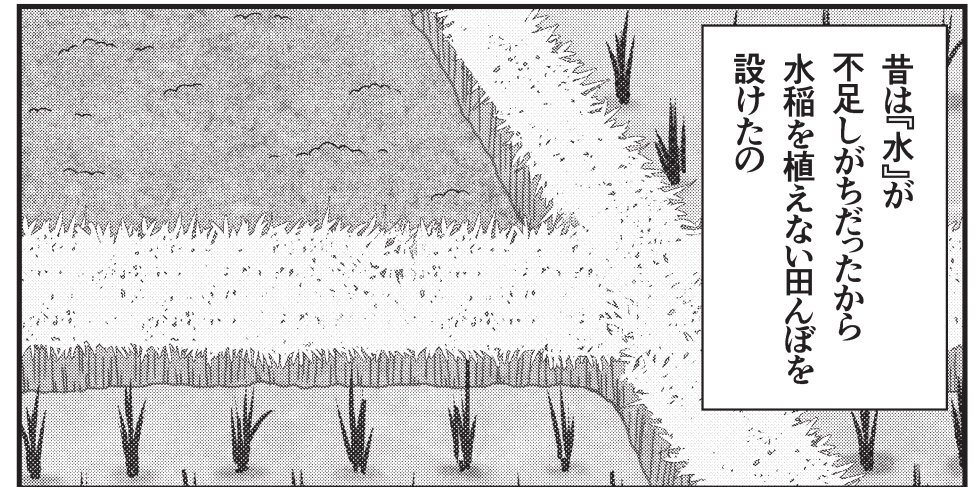
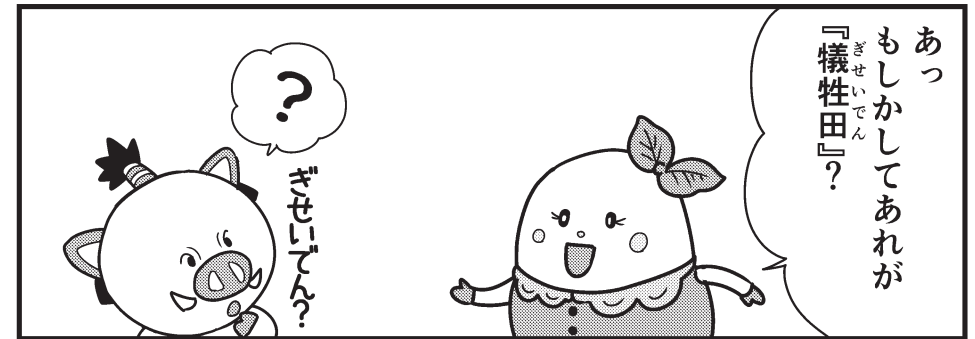
かんでんたかうねさいばい 乾田高畝栽培

雨が少なく用水が不足しがちな丹波篠山では、江戸時代ため池から割り当てられる水量が厳しく制限され、水田のすべてでは米を作れませんでした。そのため盆地内の村々では、あえて水田で水を入れず稲作を行わない「犠牲田」をいくつか設けました。

ところが、年貢を納めるためには犠牲田で何も栽培しないわけにはいきません。当時、多くの水田が粘土質で排水性に乏しく、そのままでは畑地にできませんでした。そこで、水田を掘り上げて高い畝を作り、乾燥させてようやく畑作ができるようになりました。これを丹波篠山では「堀作(ほりさく)」と呼び、ここで栽培されたのが「黒大豆」だったのです。この「堀作」が黒大豆栽培の技術的な基盤となり、「乾田高畝栽培技術」として現在に引き継がれています。



黒大豆「丹波黒」は、畝と畝との間隔が160cm、畝の高さが40cm以上という、独特な畝に植えられます。一般的な黄大豆の畝の幅は60cm、高さは30cm以下ですから、その大きさも特筆です。



まめりんの(豆)知識



丹波篠山の黒大豆栽培の特徴その②

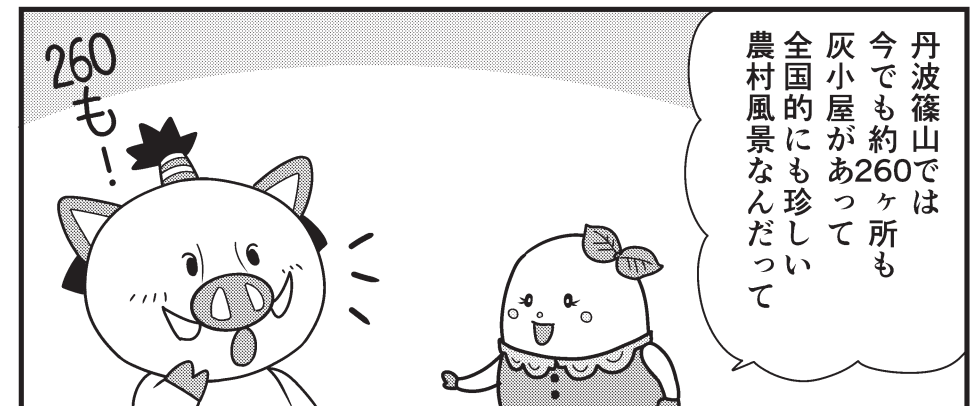
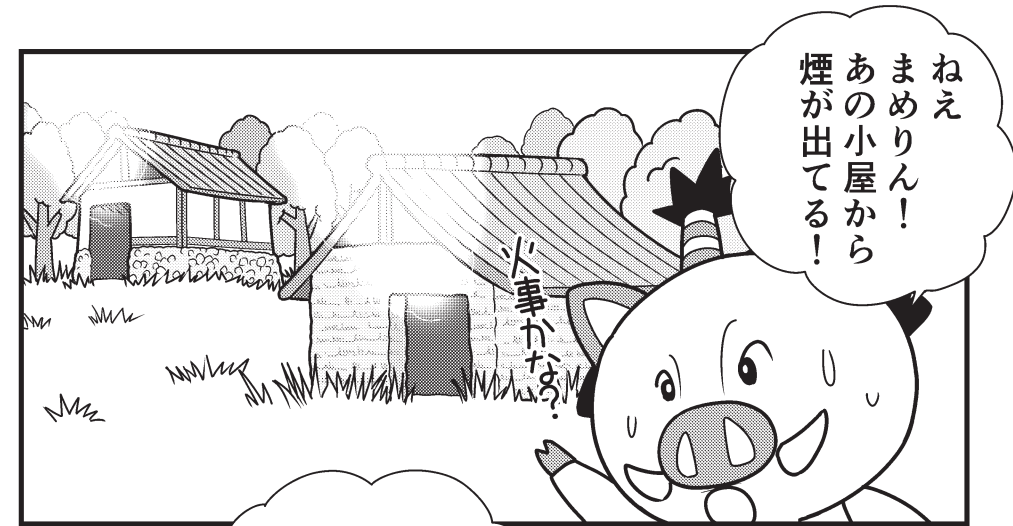
灰小屋～自然循環システム～

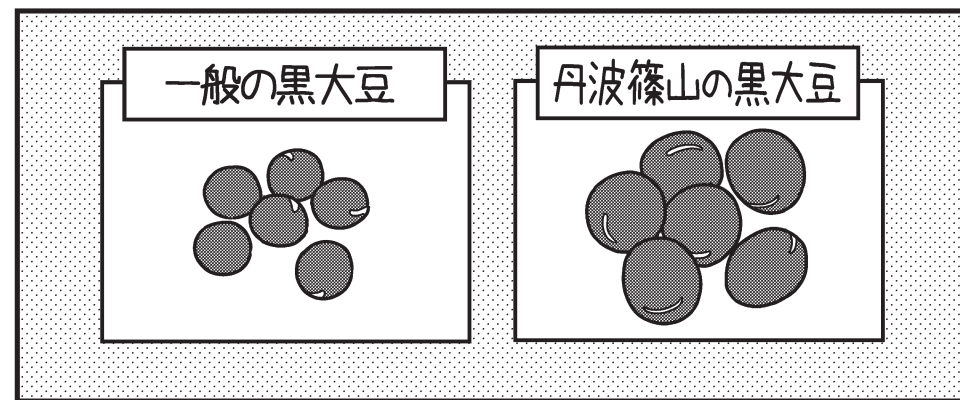
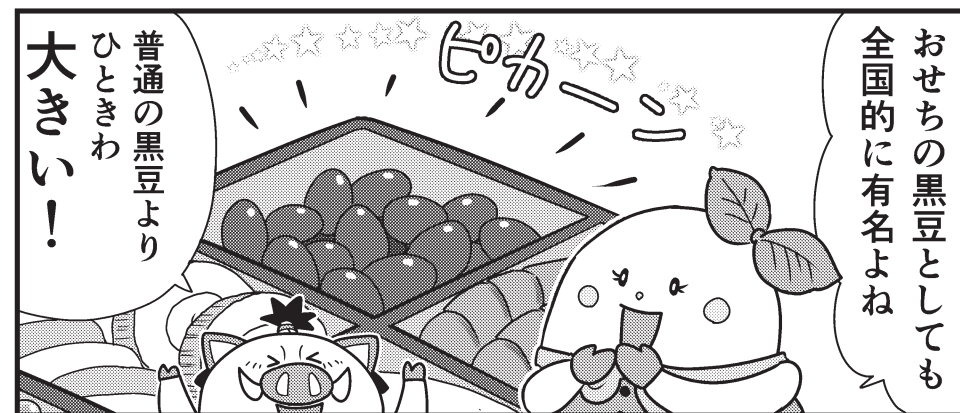
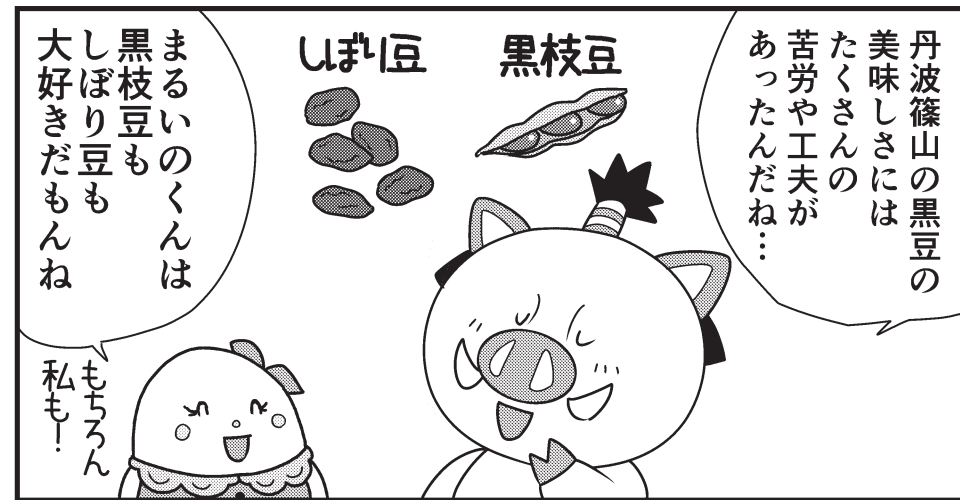
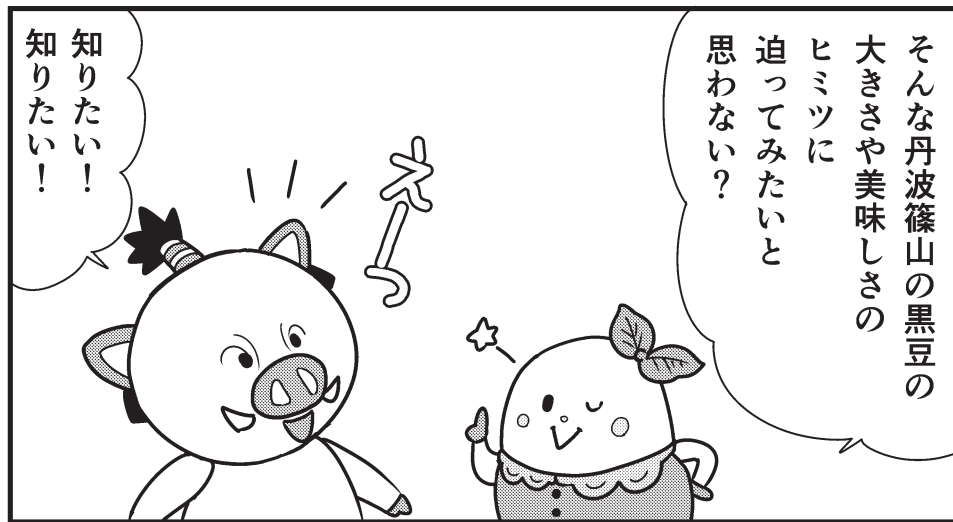
丹波篠山では、里山のあちらこちらに「灰小屋（はいごや、はんや）」と呼ばれる小屋が見られます。「灰小屋」とは、土壌改良や肥料などに用いる貴重な灰を製造・保管するためのものです。灰小屋では山の木々や落ち葉、わらなどを土と重ねて焼き、灰肥料を作っていました。これは自然資源が循環する持続性の高い仕組みといえます。

この灰小屋はかつて日本全国の農村で見られましたが、開発などによって失われていきました。令和3年度に丹波篠山市内の調査を行ったところ、今なお259箇所も灰小屋が残り、全国的にも貴重な農村風景となっています。

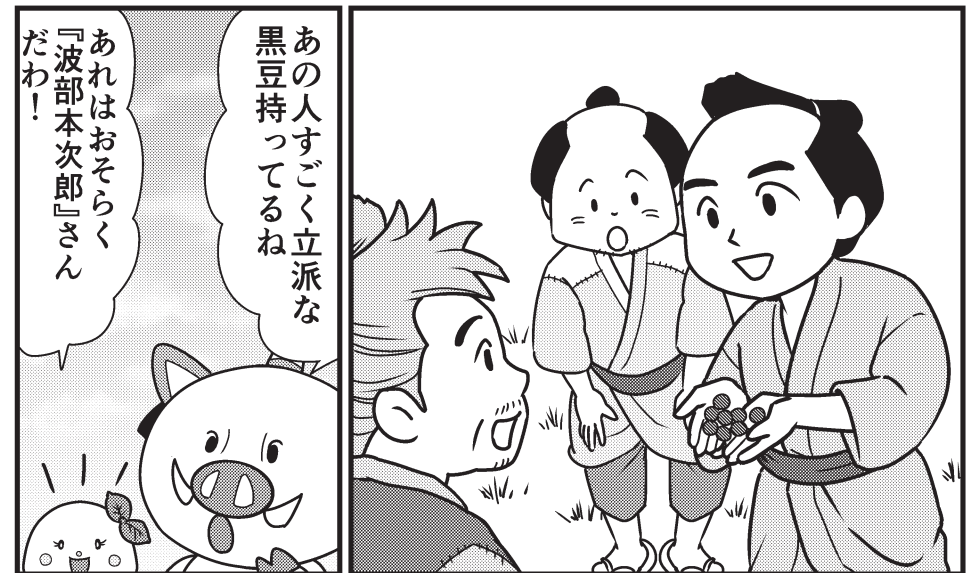


奥行180cm程度で内壁を土や漆喰で固めた「灰小屋」

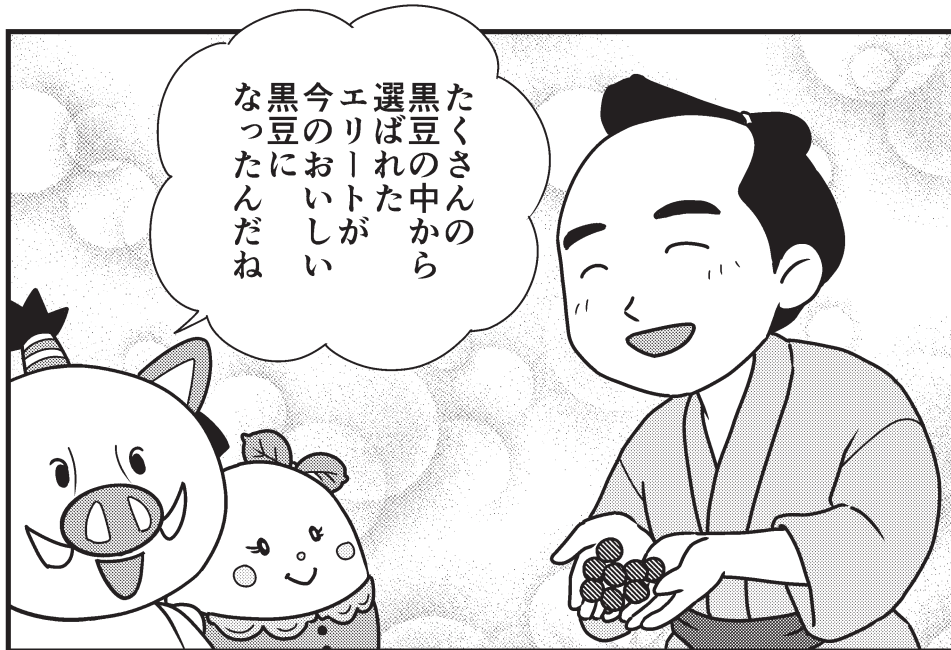
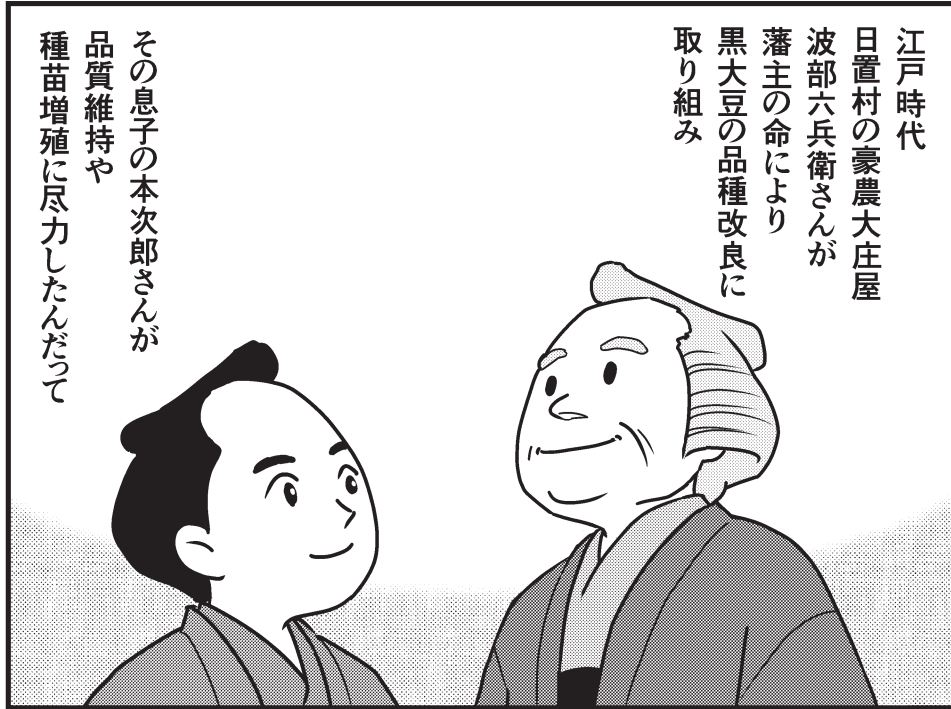




丹波篠山の黒大豆の品種改良



江戸時代
日置村の豪農大庄屋
波部六兵衛さんが
藩主の命により
黒大豆の品種改良に
取り組み



まめりんの(豆)知識



丹波篠山の黒大豆栽培の特徴その③

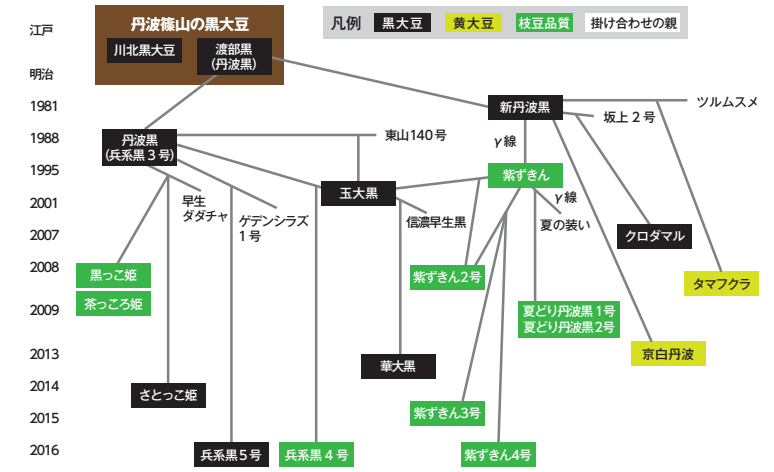
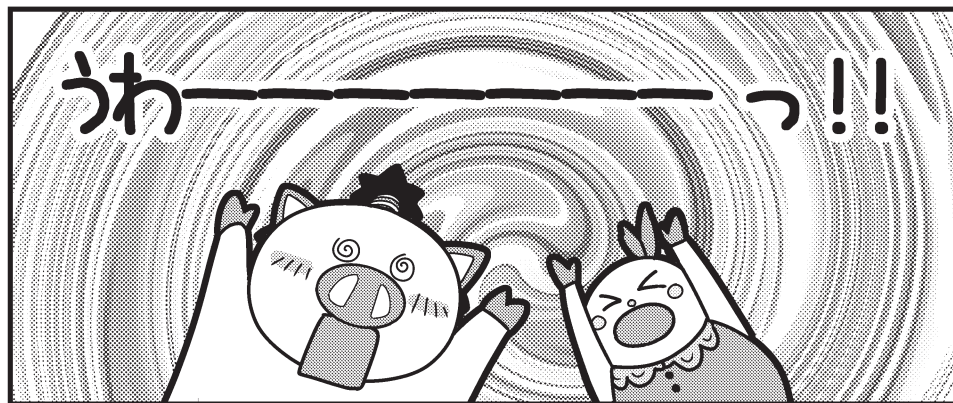
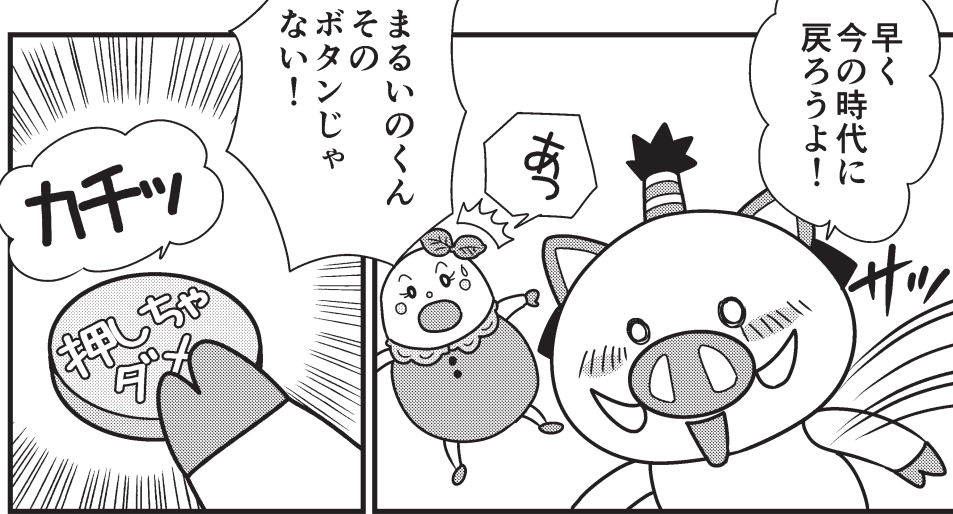
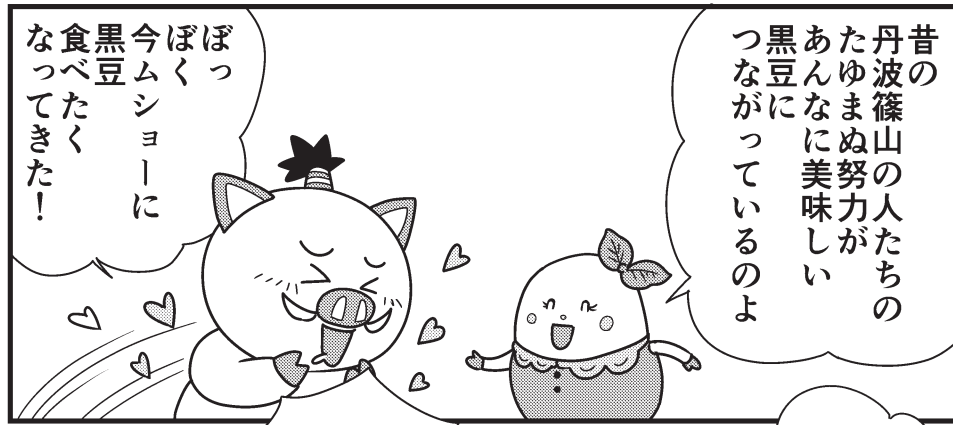
優良種子生産方式

江戸時代後期、日置村の豪農大庄屋・波部六兵衛は、篠山藩主の命により黒大豆の品種改良に取り組みます。その後、父の志を継いだ波部本次郎は明治4年に大粒の黒大豆品種を選び出して「波部黒」と名付けて丹波篠山の各地域で種子を配り、栽培を勧めました。公的な試験研究機関がない時代に官民が連携して種子を守り、育てる取り組みが進められていたのです。



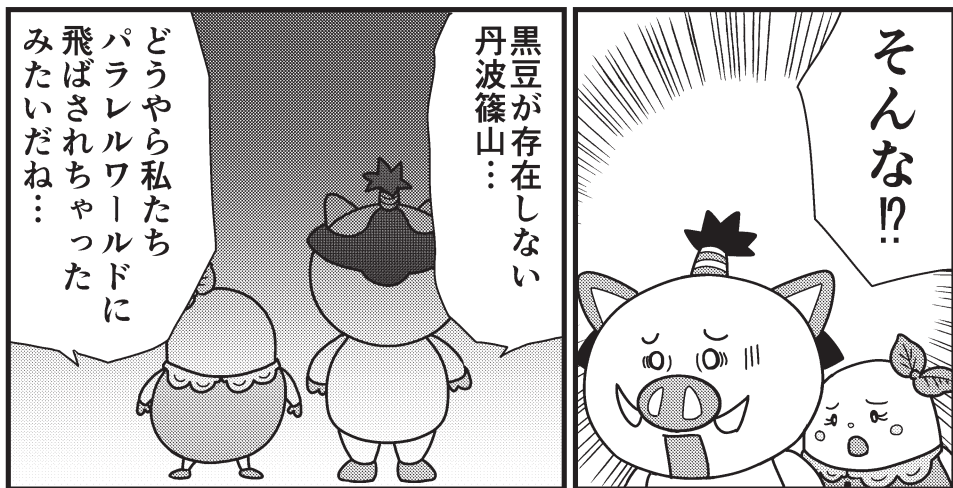
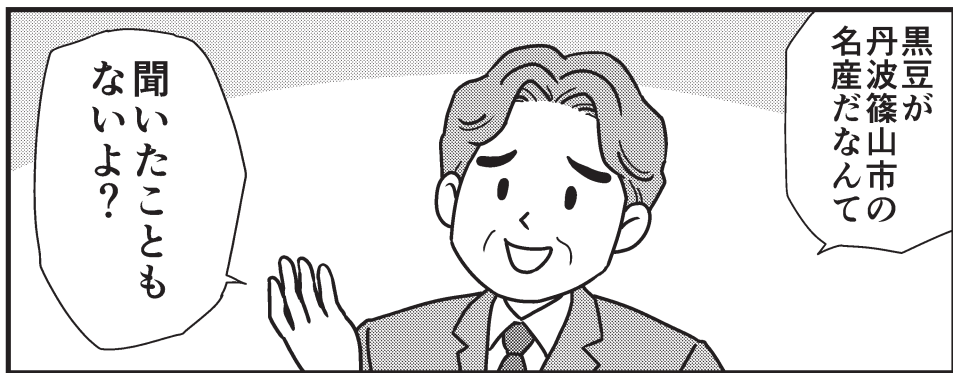
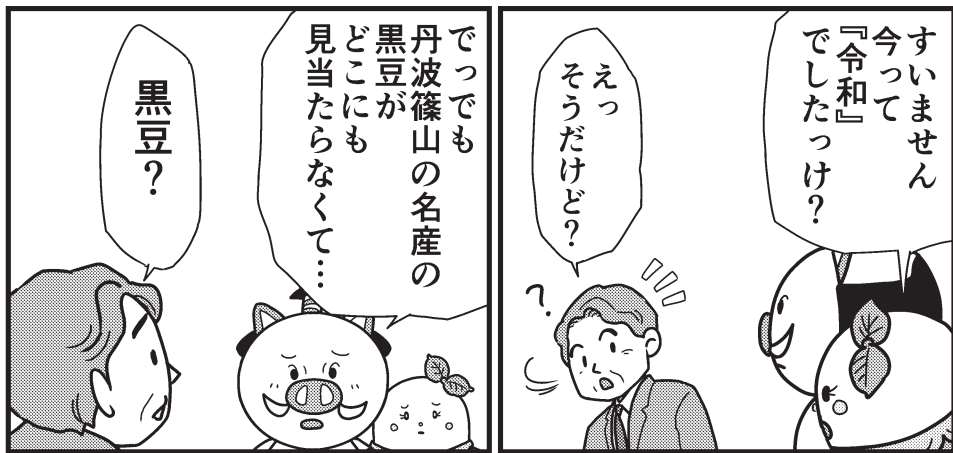
多紀郡 (1924)
波部本次郎
多紀郡制史 P.8

その後、丹波篠山の黒大豆は、大粒化を目標に優良種子の選抜を何世代も繰り返し、育種されてきました。現在でも、農家の協力のもと、官民連携による種子生産が行われています。また、日本の主要な黒大豆や黒枝豆は、丹波篠山地域の黒大豆を起源として品種改良されてきたことが、兵庫県による遺伝子解析で明らかになっています。

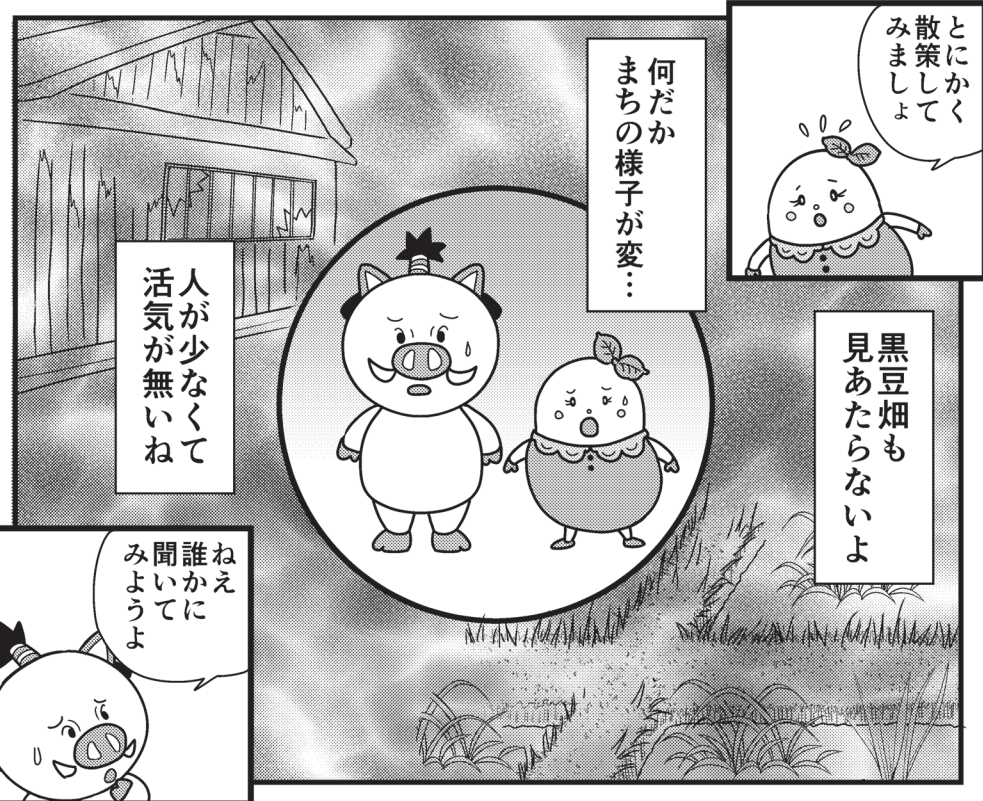
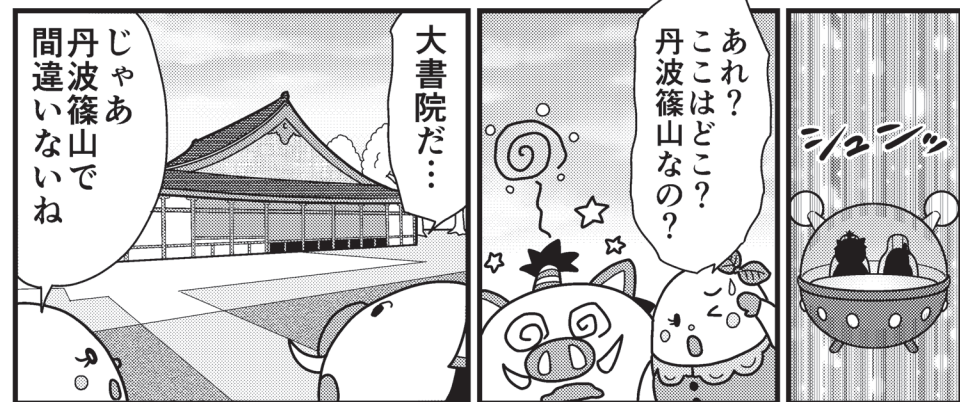


Y線：ガンマ線照射により植物の突然変異体を作り出す品種改良法（資料提供：兵庫県立農林水産技術総合センター）

※パラレルワールドとは…ある世界(時空)から分岐し、それに並行して存在する別の世界(時空)のこと



もしもいろんな取り組みをしておこなったら?





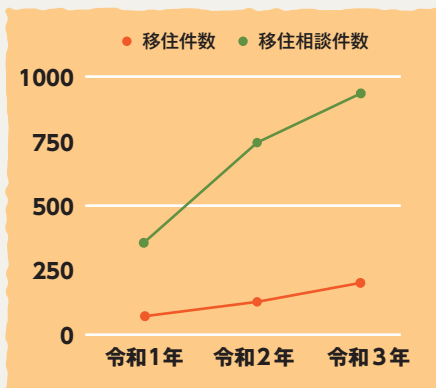
丹波篠山市が

「暮らしたい、おしゃれなまち」

として全国から注目されています

移住者、移住希望者が約3倍に！

コロナ禍もあり、田園回帰、農村回帰の流れが生まれています。特に丹波篠山市は京阪神から比較的近い距離にありながら、自然や美しい街として人気が急上昇しています。



丹波篠山の取り組み

ワクワクできる農村を未来へ！

「子どもが少ない」「村の担い手が心配だ」「空き家が増えた」など、市内各地で将来が心配されています。

そこで、こういった課題に立ち向かい、克服してワクワクするような街を創っていくために「ワクワク農村未来プラン」を策定しました。

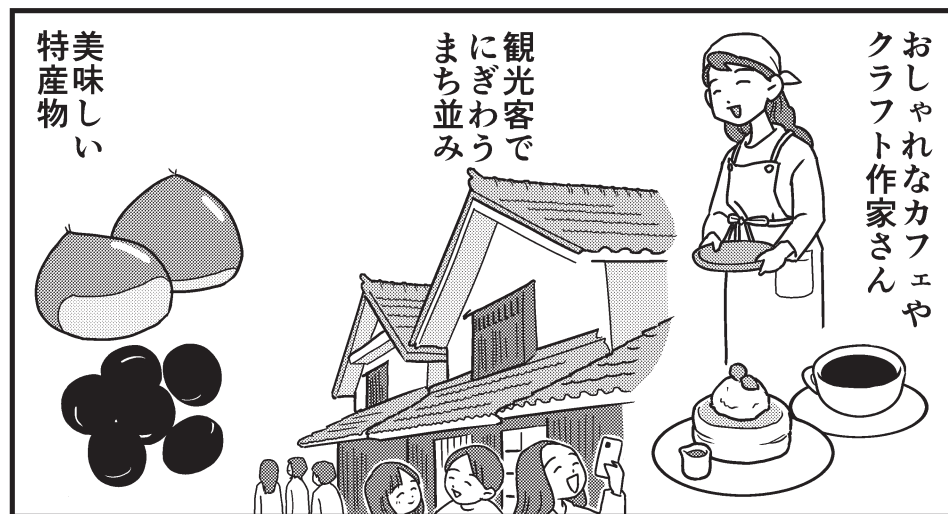
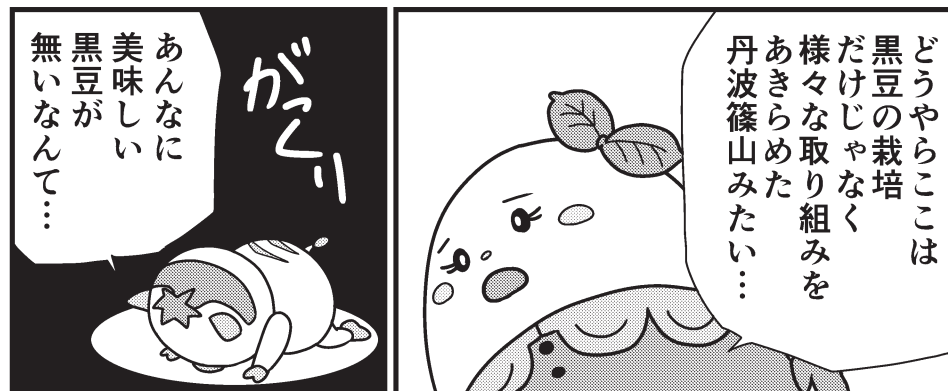
丹波篠山で暮らす幸せや地域の魅力を再発見し、ワクワクするための取り組みが市内各地で始まっています。

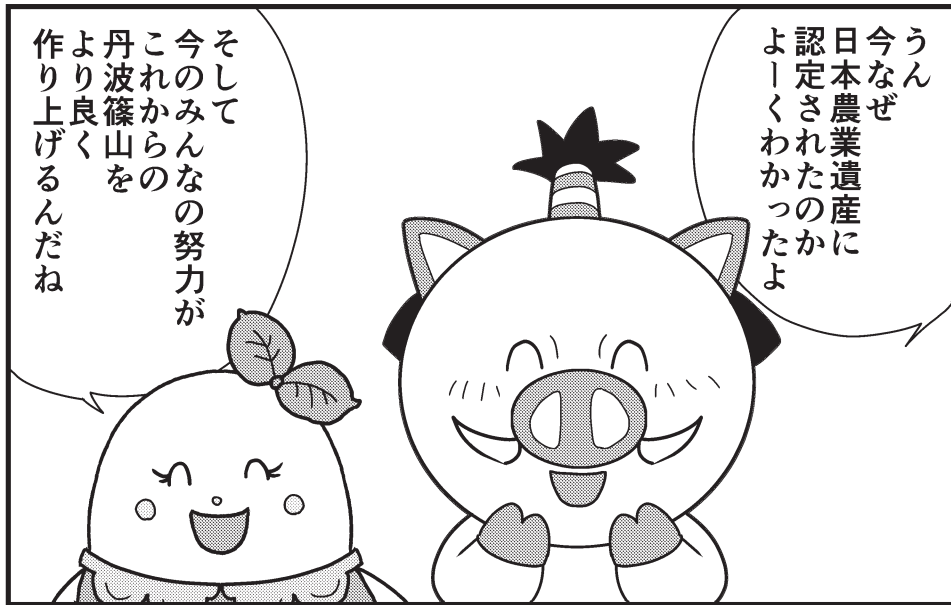
丹波篠山クラフトヴィレッジ

ユネスコの創造都市ネットワークに加盟する丹波篠山は「創造農村（クリエイティブな農村）」になりつつあります。

工芸家の工房やギャラリーがどんどん増えてきていて、陶芸、ガラス、木工、ジュエリー、革など多種多様な作家の皆さんが丹波篠山を目指してきています。

丹波篠山クラフトヴィレッジは、工房見学や、作家による解説、実演、買い物など、それぞれの方法で楽しむことができるのも丹波篠山のものづくりを味わうことができる取り組みです。





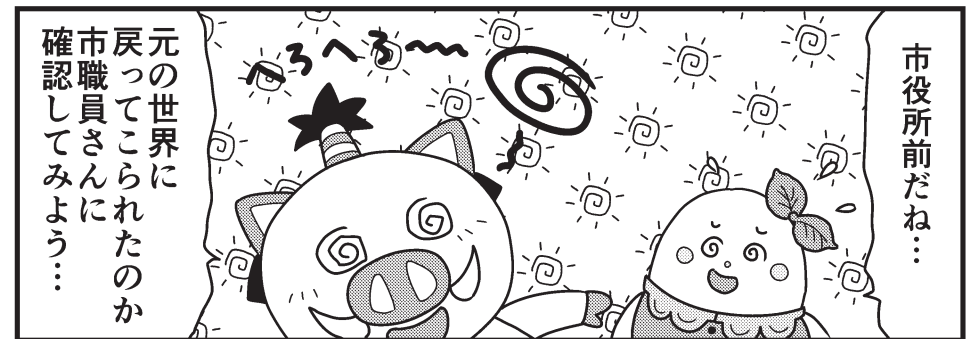
そして
今みんなの
このみんなの
丹波篠山を
作り上げるんだね

うん
今なぜ
日本農業遺産に
認定されたのか
よくわかったよ

丹波篠山のさまざまな取り組み

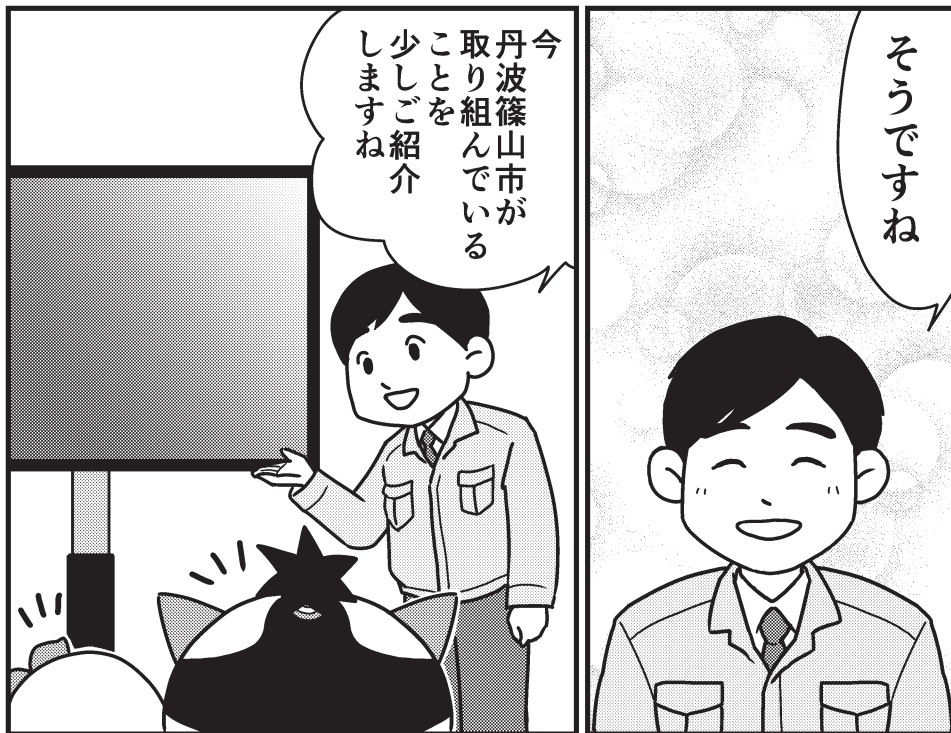


丹波篠山市役所



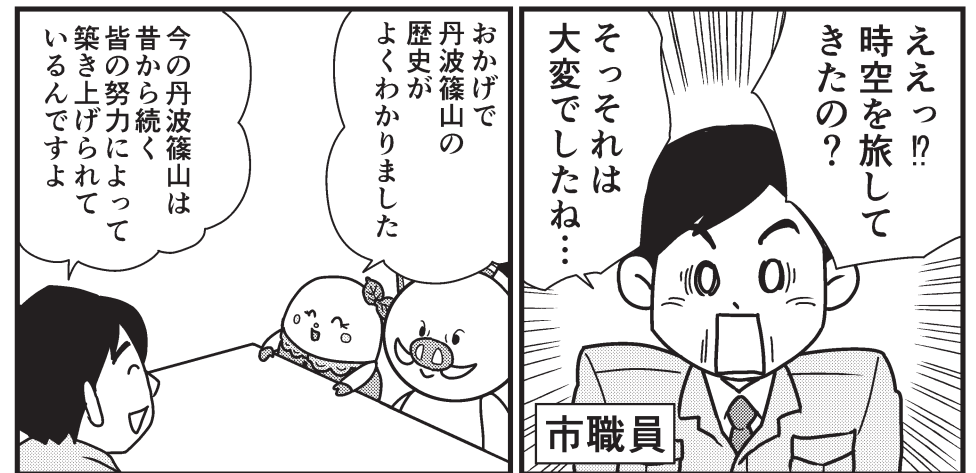
市役所前だね…

元の世界に
戻ってこられたのか
市職員さんに
確認してみよう…



今
丹波篠山市が
取り組んでいる
ことを
少しご紹介
しますね

そうですね



ええっ!!
時空を旅して
きたの?

そっそれは
大変でしたね…

おかげで
丹波篠山の
歴史が
よくわかりました

今の丹波篠山は
昔から続く
皆の努力によって
築き上げられて
いるんですよ

市職員

農都のまほろば水路

主木路 (素掘り水路)
底面や側面が土のため、植物が生育し多様な生物の生育環境が形成される。

のぼろタイプ
底面にくぼみがあり、壁面に傾斜と突起がついており、土が溜まりやすい。

穴あきタイプ
底面と側面に開口があり土に接しており、水草が生え魚類の産卵や隠れ場になる。生物が脱出することもできます。

水田魚道
水路と田んぼをつなぐ魚の通り道です。

丹波篠山市では老朽化した水路に代わりコンクリートを用いてうまく活用した農都のまほろば水路を増やそうとしています



まず一つめに美しい農村を未来へつなぐために市では自然環境や生物多様性に配慮した『農都のまほろば水路』を整備してあります

まほろばって？

『素晴らしい場所』って意味の日本の古い言葉なんです

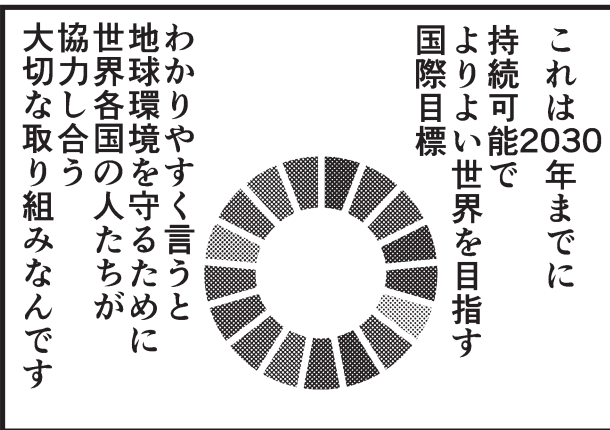
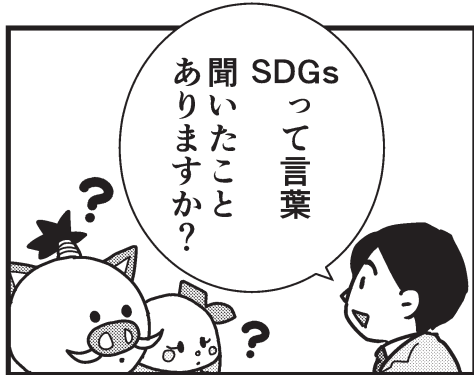
美しい田園風景と多くの生きものが暮らす農村を未来につなぐため真剣に取り組んでいます

へえ〜！生きものにも優しい取り組みなんだね

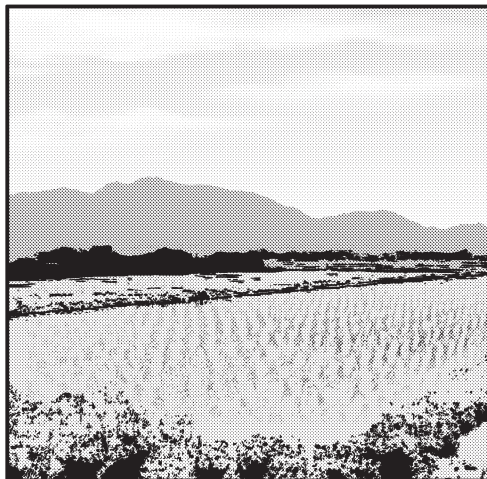
生きものがあるたんぼって楽しいよね！

まほろば…

丹波篠山らしいぴったりの名前だね！



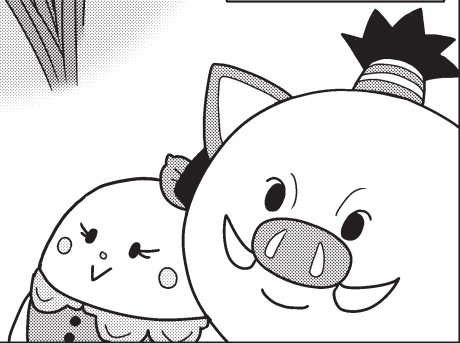
これまでに見てきたように丹波篠山でも自然と共生し工夫する知恵を先人に教わりつつ歩んできたけど



この「農都のめぐみ米」は今全世界が大切にしている地球環境の保護と足並みを揃えています




豊かな土と水を美しく保ち続けるお米づくりなので優しい



環境市民行動「丹波篠山 SDGs」

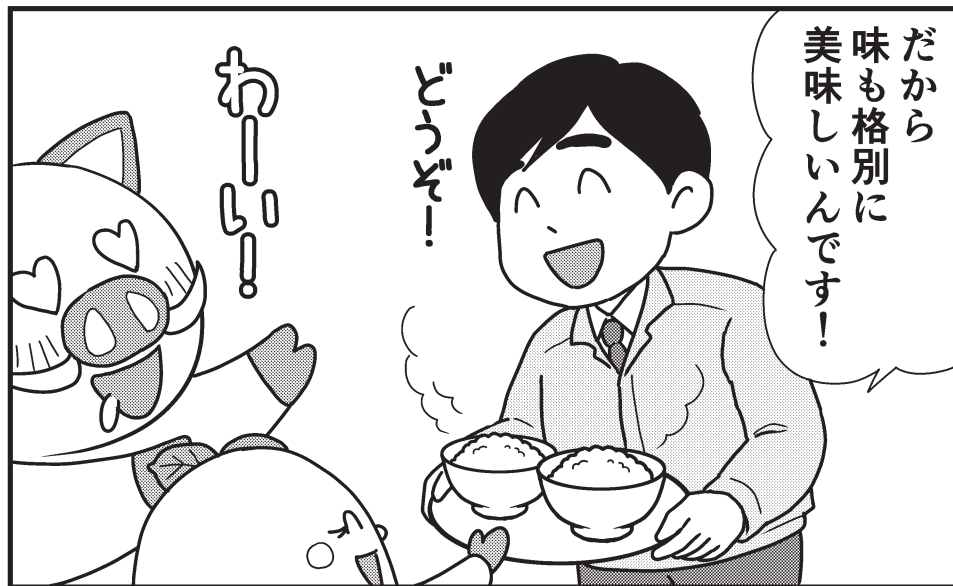
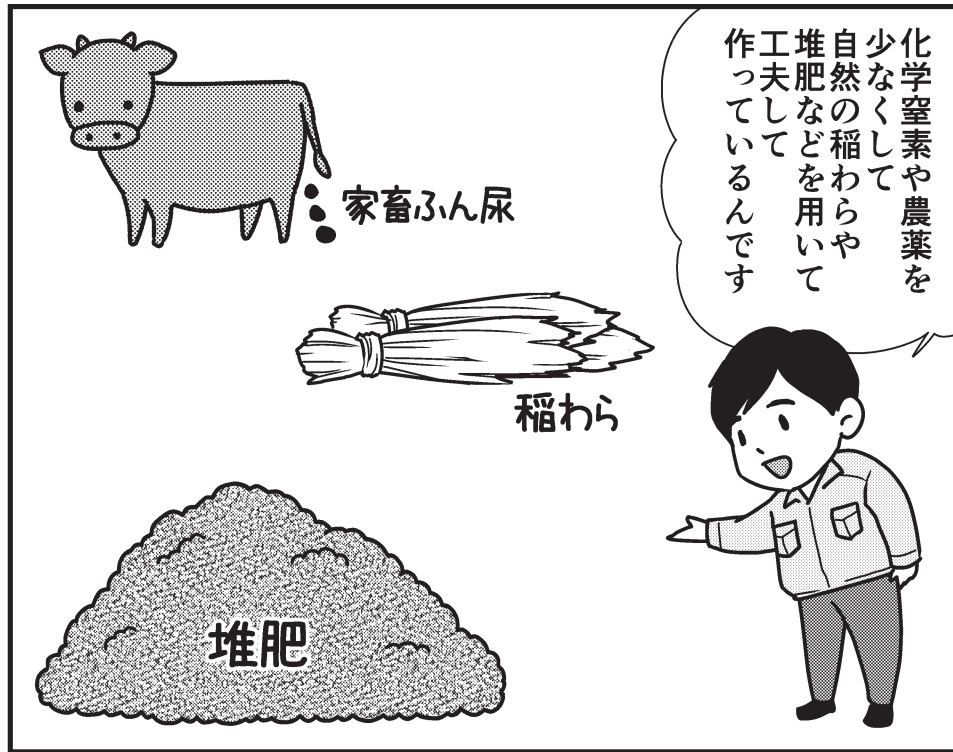
令和5年1月、丹波篠山市は「ワクワク環境みらい都市宣言」を表明。宣言では、丹波篠山の環境をよくするために市民一人ひとりが活躍し、ワクワクと将来にわたって幸せに暮らしていける魅力的なまちとして未来に引き継いでいくための方針を示しています。

「ワクワク環境みらい都市」の実現に向けた心がけや取り組んでいきたい具体的な行動を「環境市民行動『丹波篠山 SDGs』」として推奨しています。

- | | |
|---|---|
| <p>1 みらいを創る人財づくり
環境について自ら考える人になります。自ら考える人を育てます。</p> | <p>4 環境に配慮した農業
安全・安心な農産物をつくり、みんなであじわいます。</p> |
| <p>2 脱炭素社会の実現
自らの消費が環境に与える負荷を考えられる人になります。</p> | <p>5 良好な生活環境・景観の創造
森・里・川・海環境のつながりを考えられる人になります。</p> |
| <p>3 自然との共生
人と生きものが共生できる環境をつくります。</p> | <p>環境市民行動「丹波篠山 SDGs」の詳細については、こちらをご覧ください。</p>  |

関連する国連のSDGsの目標

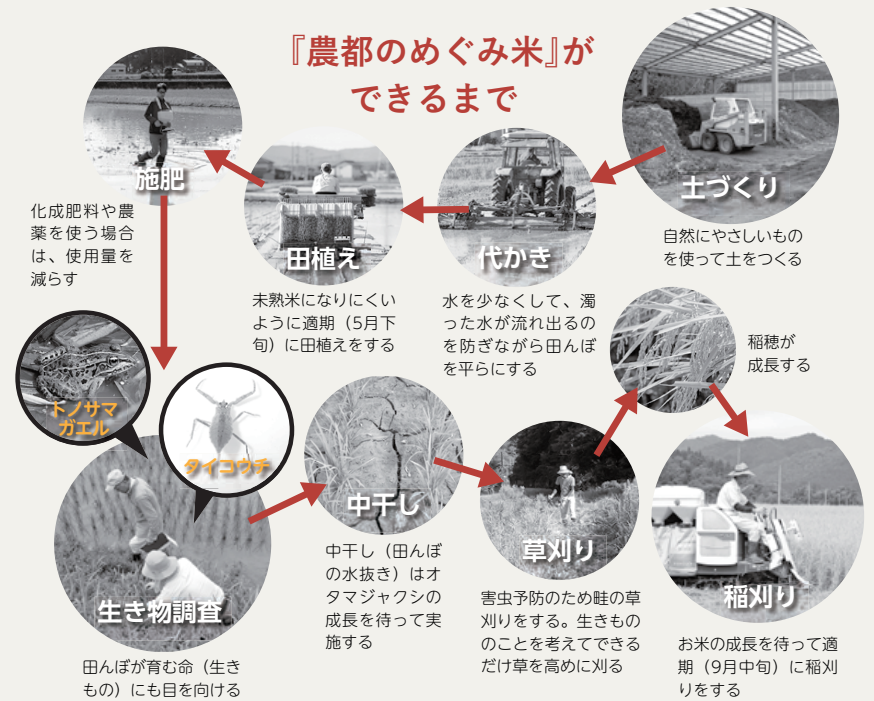




農都のめぐみ米

丹波篠山には、たくさんの生きものがある豊かな自然環境があります。そこに先人が、ため池や水路等農業施設を造り、農業が営まれてきました。この自然環境や農業用施設は、農業をすることで、お米づくりだけではなく、生きものの棲みかや、美しい農村景観づくりにも役立っています。

丹波篠山では、こうして自然と人がつながってできた農村環境を「農都のめぐみ」として大切に、環境負荷を低減し、生物多様性を守り、持続可能な農村づくりを進めています。



「農都のめぐみ米」は、以下の条件を満たし、自然環境や生きものに配慮した米づくりのことで。

- ① 化学肥料・農薬を兵庫県基準の2分の1以下とする。
- ② 田んぼの生きものの成長に配慮しながら中干しを行う、または避難場所をつくる。

丹波篠山市名誉市民 河合雅雄先生の教え



「僕らはみんな生きている」

河合雅雄先生の愛された歌は、「僕らはみんな生きている」で始まる「手のひらを太陽に」でした。この歌のとおり、ふるさとでの美しい自然や生きものをこよなく愛され、自然との共生を説き続けられました。

①丹波の森構想

人、自然、文化の調和した地域づくりをめざすもので、当時の貝原県知事とともに提唱されました。丹波地域の大きな理念としてはや30年、全国的にも地方創生の先駆けです。



②水辺

平成14年に丹波篠山に帰ってこられた際、「川の姿が無残になった、コンクリートで固められ、実にけしからん。川は元来、いろんな生物の棲むところだという根本を全部忘れてい」と語られました。



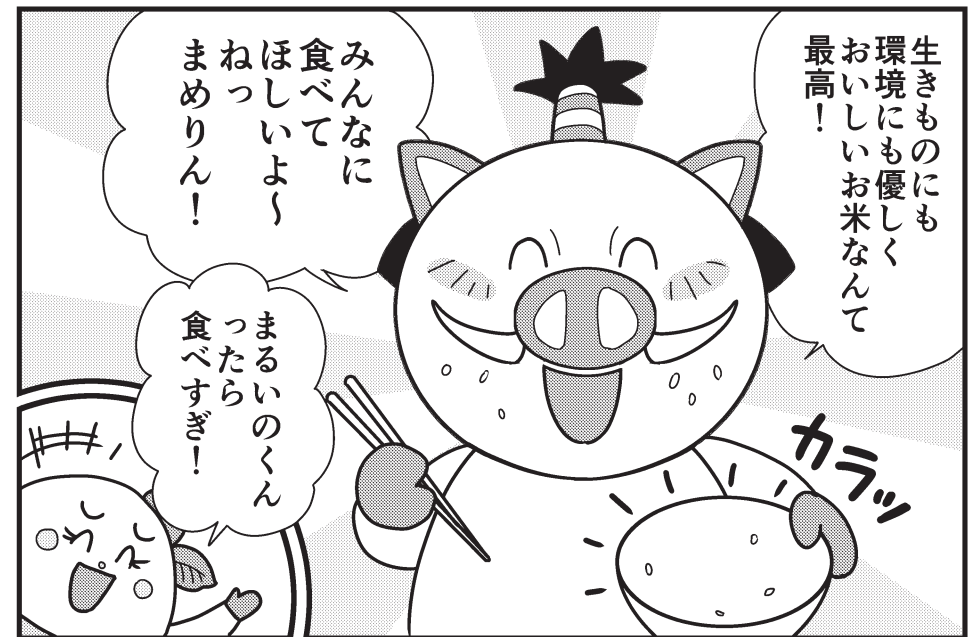
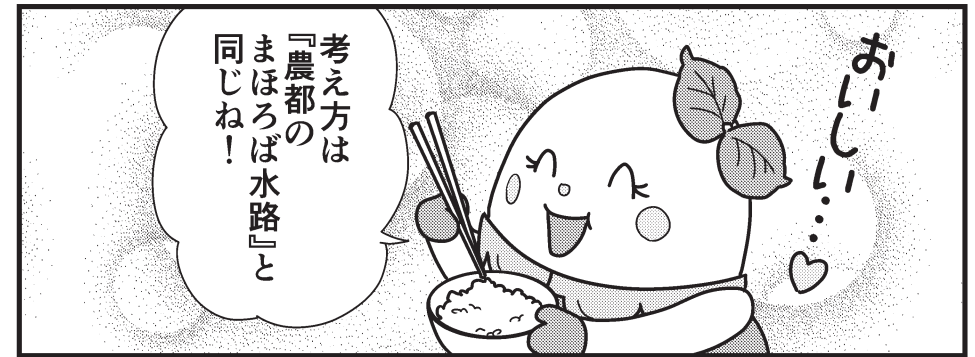
③里山

ヨーロッパの人は森が好き、小鳥や蝶、花や小動物を楽しんで歩くという「森遊び」を紹介され、スギ、ヒノキからの「転植」をすすめられました。

⑤原風景のまち丹波篠山

「日本中の地方都市は同じような姿になってしまった。しかし、丹波篠山は、城下町としてのたたずまいの美しさ、品位のある風格を持っている。丹波篠山のあるべき姿は、日本の原風景としてのまちを維持していくことだ」とされました。

(令和4年3月発行河合雅雄先生追悼記念誌から引用)





これも丹波篠山市が大切にしている自然との共生と言えるのかしら

じゅ、獣がい... ぼくも...?

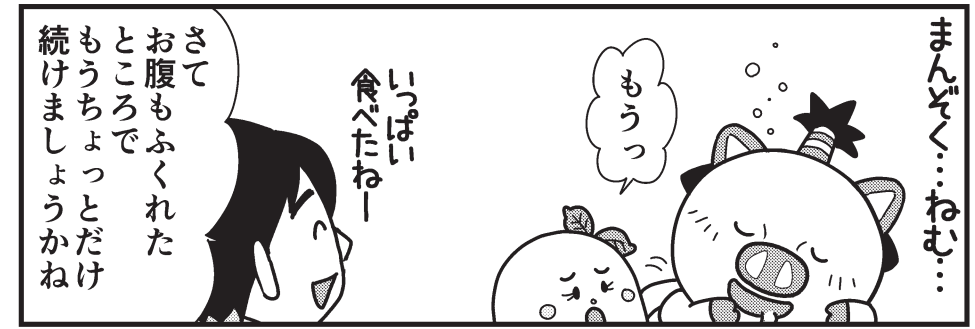


今日は過去から現代まで変わらない丹波篠山が大切にされてきたことがわかりましたね!



はい!

ぼくたち私たちが安心して豊かに暮らしているのは丹波篠山で受け継いできた思いがいろんな取り組みとなって今に続いているからだね



さてお腹もふくれたところでもうちょっとだけ続けましようかね

いっばい食べたいねー

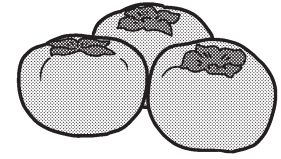
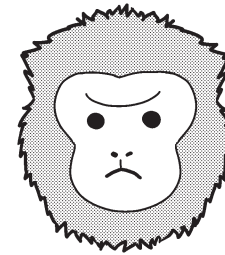
もうっ

まんぞく...ねむ...

獣がい対策

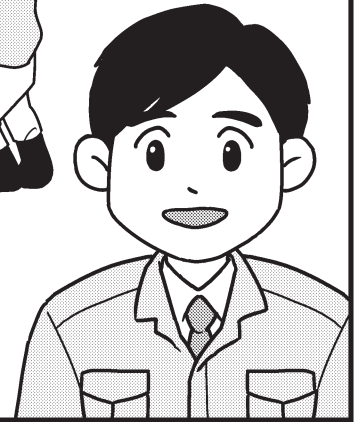
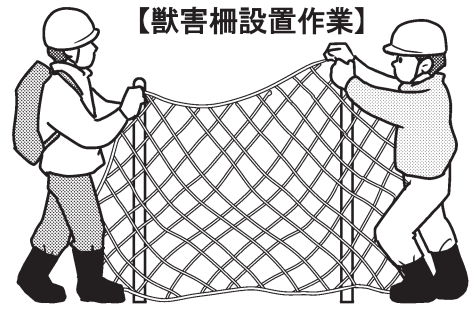
【畑地区で実施している「さる×はた合戦」】

関係人口との協働とニホンザル出沒の抑制を目的とした柿取りイベント



ほかにも野生動物を害悪ととらえて人との対立をおおるのではなく様々な取り組みによって地域の活性化を図っています

【獣害柵設置作業】



まとめ

祝・日本農業遺産認定

「丹波篠山の黒大豆栽培～ムラが支える優良種子と家族農業～」が農林水産省から日本農業遺産として認定されました。

黒大豆の歴史を見にいこう！

雨が少ない丹波篠山の苦労と工夫から生まれた黒大豆栽培。特徴的な「乾田高畝栽培技術」や「灰小屋」という循環型で持続性の高い仕組みがあります。

江戸時代からつづく、黒大豆の品種改良

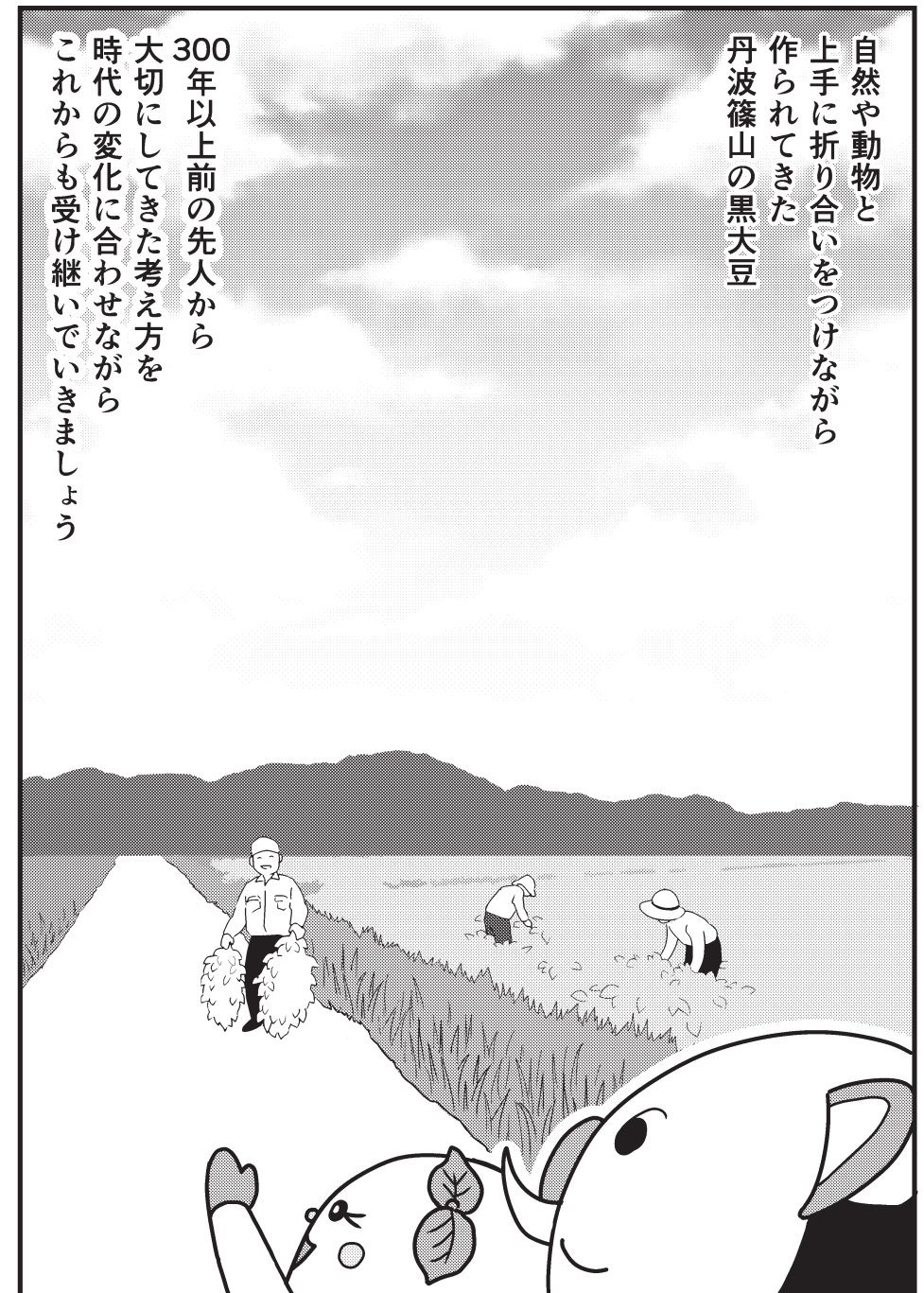
江戸時代から品種改良が続けられ、たくさんの品種のなかから選び抜かれた品種が今の美味しい黒大豆になりました。

もしもいろんな取り組みをしてこなかったら？

黒大豆だけではなく、暮らしや文化を大事に守ってきたからこそ、丹波篠山は全国から注目される街になりました。

丹波篠山のさまざまな取り組み

300年前からつづく人々の努力で築かれてきた丹波篠山は、これからもより良いまちを築くために、さまざまな取り組みをつづけています。『農都のまほろば水路』『農都のめぐみ米』『ワクワク環境みらい都市』や、地域の活性化を図る視点に立った「獣がい対策」など紹介します。



日本農業遺産のまち丹波篠山の未来に向けて

「丹波篠山の黒大豆栽培・300年の歴史」が日本農業遺産に認定されました。

丹波篠山黒大豆は、長年、何世代にもわたって大切に栽培されています。この日本農業遺産は、美味しくて大きな黒豆の栽培が盛んで有名だというだけでなく、今も多くの農家に受け継がれ、集落で協力し合いながら栽培技術や文化、景観、生物多様性などが守られてきたことが認定されたものです。

また、丹波篠山市には、日本の原風景と言われる美しい農村の田園風景が広がっています。今回の認定では、黒豆の栽培を通して、灰小屋や水路など農村の景観や自然環境が保たれてきたことが高く評価されました。

さらに、農業の都であるという農都宣言をし、農業や農地を大切にしながら、これをもとに土地利用や景観、ふるさとの森づくり、生物多様性などのまちづくりを進めています。この漫画を通じて、日本農業遺産として認められた丹波篠山黒大豆の素晴らしさが伝わり、子どもから高齢者まで市民みんなが誇りを持てるよう願っています。

全国に誇る黒豆栽培とともに、美しい農村、そこで暮らす人々の姿が未来につながるよう、これからも共に取り組みを進め、農都丹波篠山をさらに盛り上げていきましょう。

令和5年3月

丹波篠山市長 **酒井 隆明**

令和5年(2023年)3月発行

発行：丹波篠山市

問い合わせ先：兵庫県丹波篠山市北新町41 農都創造部農都政策課

TEL:079-552-1114